



2017年9月期 中間報告書

2016年10月1日～2017年3月31日



株式会社三菱総合研究所

証券コード：3636

ごあいさつ



株主の皆様には平素格別のお引き立てとご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2017年9月期第2四半期累計期間(2016年10月1日～2017年3月31日)の連結決算についてご説明申し上げます。

代表取締役社長

森崎 存

当社グループは、社会とお客様の課題を解決する総合シンクタンクグループとして、シンクタンク・コンサルティング(TTC)とITサービス(ITS)の両輪で事業を推進し、両事業の連携・シナジーによる持続的成長を目指しております。

第2四半期累計期間のTTCは、シンクタンクの強みである先端的な科学技術の知見活用や重要政策分野への集中による事業展開を図ってまいりました。具体的には、AI(人工知能)活用によるものづくり支援や、エネルギー、ヘルスケア・ウェルネス分野の事業は計画どおりに伸長いたしました。民間企業向けの進展が遅れ、TTC全体では減収・減益となりました。

ITSは、金融機関やクレジットカード会社向けのシステム開発に積極的に取り組むとともに、販管費の削減にも努め、増収・増益となりました。

これらの結果、同累計期間の連結業績は、微増収・減益となりました。

また、当社グループの足もとの受注状況および今後の見通しなどを踏まえ、通期の業績予想を修正いたしました。

中間配当は、期初予想どおり1株当たり35円としております。

当社グループは、今後とも未来共創の志で「人と組織の持続的成長」を目指してまいります。株主の皆様には、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

通期業績予想

(2016年10月31日公表予想から修正いたしました)

売上高

900億円
前期比 **3.6%**増

経常利益

62億円
前期比 **5.5%**増

親会社株主に帰属する
当期純利益

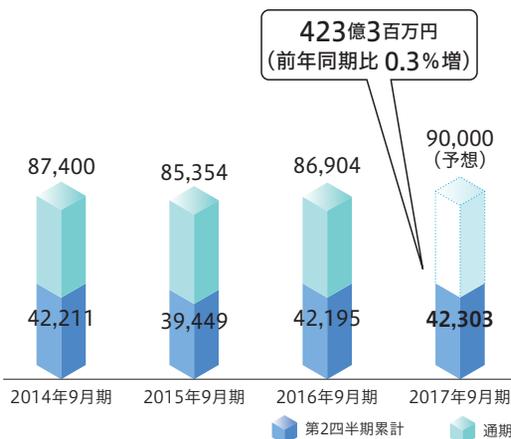
36億円
前期比 **5.1%**増

決算のポイント

- 金融・クレジットカード向け案件で売上増も、一般産業向けの減少により、微増収
- 営業機能強化などに伴う販管費の増加を事業拡大でカバーできず、減益
- 足もとの受注状況や主要顧客向け案件の進捗状況に鑑み、通期の利益予想を下方修正

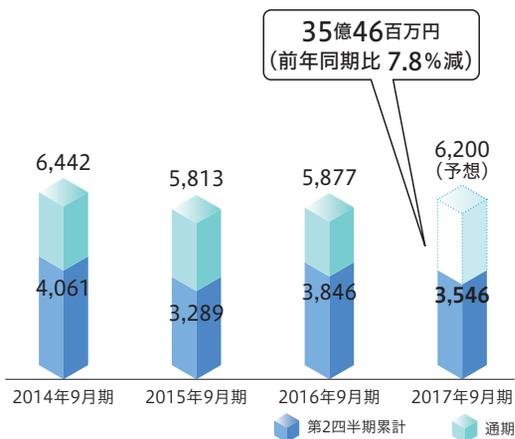
売上高

(単位：百万円)



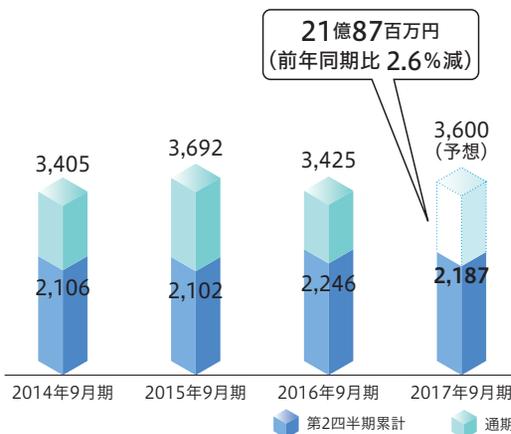
経常利益

(単位：百万円)



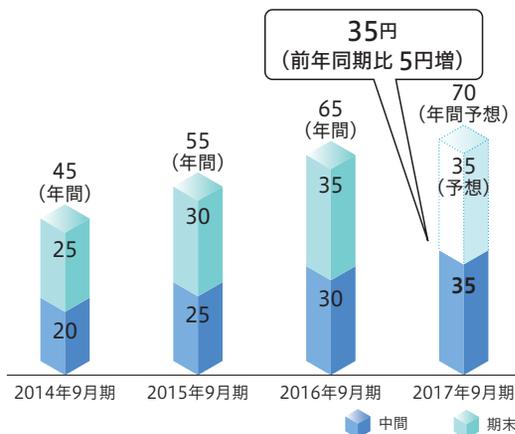
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位：百万円)



1株当たり配当金

(単位：円)



決算説明会動画配信中

2017年4月28日に開催した2017年9月期第2四半期決算説明会の模様を、当社ホームページでご覧いただけます(2017年7月中旬まで)。

<http://www.mri.co.jp/ir/index.html>

セグメント別業績

2015年9月期より事業セグメントを変更しております。

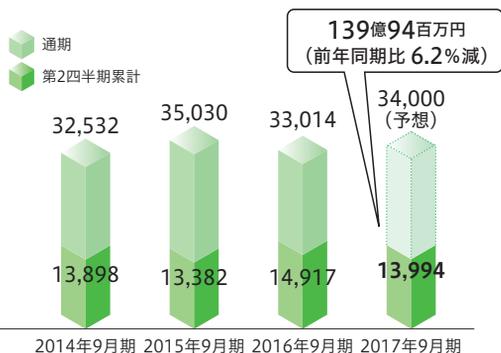
● シンクタンク・ コンサルティングサービス



- 前期の鉄道会社向け大型案件の反動減や、金融機関向け案件のグループ内事業移管の影響などにより減収
- 官公庁向け案件の受注積み上がりは順調も、営業機能強化などで増加した販管費の吸収は難しく、通期利益予想を下方修正

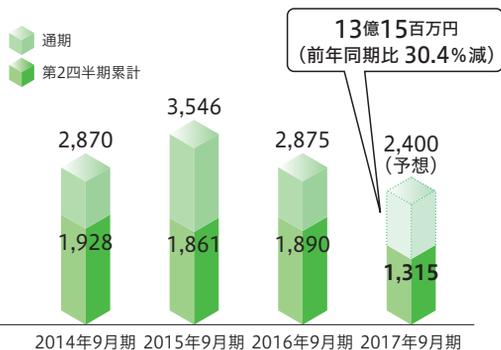
売上高

(単位：百万円)



経常利益

(単位：百万円)



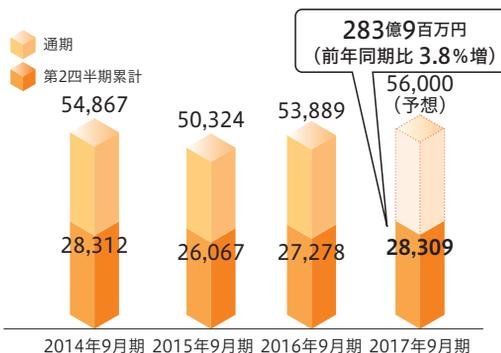
● IT サービス



- メガバンクを中心に金融機関向けが伸長し、増収。利益面では、増収効果に加え、販管費の抑制が寄与し、増益
- 増収・増益も、クレジットカード会社向けでシステム開発のピークが想定より後ろ倒しとなる見込みから、期初の通期予想を据え置き

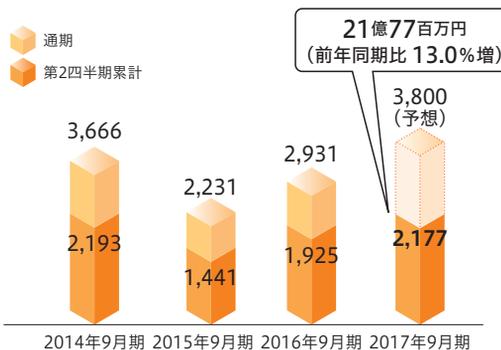
売上高

(単位：百万円)



経常利益

(単位：百万円)



トピックス

AI(人工知能)を活かした 新たなビジネスやサービスの創出

昨今の科学技術の進展には目を見張るものがあり、社会への実装も日進月歩で進んでいます。特に、AIやロボットなどの先端技術は、産業や我々の生活を大きく変えようとしています。当社は、これまで先端技術にかかる知見を活用した、コンサルティングやサービスを提供しておりますが、AIの活用においても新しいサービスを展開しています。行政向けには、子育てに関する住民の問い合わせにAIが応えるサービスを開発し、川崎市と掛川市での実証実験を通じて事業化を図っています。また、大規模な意見収集にスマホ対話型AIを活用することで、これまで気づけなかった住民のニーズを政策や合意形成に反映するコンサルティングを実施しています。企業向けには、採用時にAIが入社志望の学生と企業が求める人物像の適合性を評価するサービスを、個人向けには、対話型AIが家庭菜園初心者からの疑問・質問に、24時間自動回答するサービスを提供しています。科学技術に強いシンクタンクとして、今後も新しい技術を活用した効率や利便性を高めるサービスを提供してまいります。

マテリアル革命が切り開く 社会変革

製造方法や技術が進み、従来考えられなかった性質や機能を発揮できる新しい素材が次々と生まれています。鉄やプラスチックが私たちの暮らしを一変させたように、こうした新素材=マテリアルは、社会を大きく変革する可能性を秘めています。このインパクトはデジタルイノベーションと双璧をなすものと考えられます。

車のボディを鉄から新素材に変えれば、重量は半減し走行距離が飛躍的に伸びます。生体適合材料が進化すると、体内埋め込み型部材による治療が本格化します。超電導材料はICT分野の処理速度向上や低消費電力化を実現します。

日本は、この分野で世界トップ水準の技術力を有しており、当社は国や企業の研究開発や事業を強化するためのコンサルティングサービスや政策研究を行っています。

8月末発行の未来読本『PHRONESIS(フロネシス)』では、マテリアルが変える未来社会の構想を通じて、社会的課題の解決に向けた取り組みをご紹介します。

当社研究員による解説動画の配信を開始しました



当社ホームページに新しい映像を掲載しました。研究員がAI(人工知能)などについてわかりやすく解説する動画です。投資家情報トップページからご覧いただけます。スマートフォンからはQRコードをご利用できます。

[Web http://www.mri.co.jp/ir/index.html](http://www.mri.co.jp/ir/index.html)

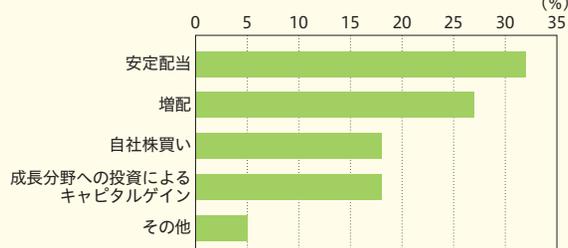


アンケート結果報告

2016年9月期決議通知に同封させていただきましたアンケートに、多数の皆様よりご回答をいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果の一部をご報告いたします。頂戴いたしました貴重なご意見は、今後のIR活動・情報発信等に活かしております。

なお、今号でもアンケートを実施しております。ご協力いただきました方には、トピックスページで取り上げました『フロネシス』最新号をお届けいたします。ご返信期限は2017年7月15日(当日消印有効)です。

■ 当社の株主還元策で最も期待されること (複数回答)



株式の状況 (2017年3月31日現在)

発行可能株式総数 60,000,000株

発行済株式の総数 16,424,080株

株主数 5,886名

所有者別分布状況

	株主数 (名)	構成比 (%)	株数 (千株)	構成比 (%)
金融機関	28	0.47	3,753	22.85
金融商品取引業者	25	0.42	128	0.78
その他の法人	151	2.57	8,463	51.53
外国法人等	121	2.06	1,243	7.57
個人・その他	5,561	94.48	2,836	17.27
合計	5,886	100.00	16,424	100.00

※株数(千株)は百の位を切捨て

株主メモ

事業年度 10月1日から翌年9月30日まで

定時株主総会 12月

基準日 定時株主総会議決権行使株主確定日 9月30日

期末配当金支払株主確定日 9月30日

中間配当金支払株主確定日 3月31日

(上記のほか必要ある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ定めた日)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL 0120-232-711 (通話料無料)

9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

(注) 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関の事務拠点の移転に伴い、2017年8月14日以降の連絡先は以下となります。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

東京都府中市日鋼町1-1

TEL 0120-232-711 (通話料無料)

9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式会社三菱総合研究所

〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目10番3号
TEL 03-6705-6001 URL <http://www.mri.co.jp/>



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

